



1月 おいすかだより

2022年1月12日発行

日本では東京にも大雪が降りましたが、ジャカルタでは雨期の中でも最も降水量が多い1月になりました。幼稚園の庭では様々な作物が、ぐんぐん育っています。



左の画像は唐辛子（チャベ）の二葉です。唐辛子をはじめスパシーな味付けの多いインドネシア料理には欠かせないものです。子どもたちと一緒に種を蒔き、育てています。実がついた後の世話には注意が必要です。うっかり実を触ろうものなら辛味成分のカプサイシンが手につく場合があります、カプサイシンがついた場合には石鹸で入念に洗い流さないことには辛味成分が手指から落ちることはありません。目や鼻の粘膜に触れようものなら、激しい痛みが生じることになります。

右の画像は、トウモロコシのビニールハウス



です。子どもたちの背丈よりも高く育つトウモロコシは、毎年、子どもたちの関心が最も集まる人気の作物です。

唐辛子もトウモロコシも、もちろん有機農法で育てています。オイスカジャカルタ幼稚園には理事長先生をはじめとして、作物を育てることを得意とするスタッフがたくさんいます。コロナのこの時期、野菜をいっぱいいただいて免疫力をアップしましょう。早く幼稚園での調理活動が再開できますように！

【1がつ おたのしみかい】

1がつ23にち（にちようび）ジャカルタじかん9じ

にほんじかん11じからです。

にほんから、じゃかるたから、あつまりましょう！

【Mちゃんのお母さまのつぶやき】

コロナの影響で帰国していましたが、昨年10月、1年半ぶりにジャカルタに戻ってきました。現在のジャカルタはコロナ前とは違い、モールに入る時はワクチン接種証明のアプリ提示が必須。病院は完全予約制です。国内移動も沢山の規制があり日本との違いを感じる日々です。帯同家族は少しずつ戻ってきていますが以前のように多くの帯同家族の姿はまだありません。

昨年の11月にオイスカ幼稚園に入園させて頂きました。当局の指導により登園日数や保育時間がコロナの感染防止のために決められていて、日本とは違う幼稚園の状況を娘が受け入れる事ができず、「日本に帰りたい」と毎日泣く日々でした。私も娘の泣く姿を見るのが辛かったのですが、りさ先生に相談しアドバイスを頂きながら今日まで過ごしてきました。すっくと心が軽くなってきました。今、娘は先生方やお友達の協力のおかげで園庭で走り回って遊び、「ランブータン！」と、園の果物を取って喜んでます。ようやく娘の笑顔が戻り嬉しそうです。幼稚園の全面再開や世界中行き来ができる世の中に1日でも早くなりますよう願っております。

★幼稚園から★

泣いていたMちゃんが瞬く間に笑顔を取り戻されて、たいへん嬉しく思っております。お母さまの「つぶやき」をいただいた後にインドネシア教育文化省による対面教育再開のオンライン説明会があり、1月3日から対面保育が全国的に可能となりました。新年からは対面での保育を始めております。11日からはお弁当持参で子どもたちは登園します。スクールバスの運行も検討中です。さらに、シマトパンでは「オイスカジャカルタこども園」が開園予定です。こども園では0歳のお子さまからお預かりいたします。ランダックは以前と変わらず、最年少、年少、年中、年長の4学年です。シマトパンのこども園につきましても、チランダックの幼稚園にお問い合わせください。